

土木学会原子力土木委員会 新立地部会
平成 13 年度 第 1 回 断層活動性分科会 議事録

日 時： 平成 13 年 11 月 8 日 9：00～11：00

場 所： ホテルモンターニュ（松本市）会議室

出席者：（敬称略、50 音順）

主 査 垣見（元原子力発電技術機構）

副主査 井上（電中研）

委 員 大野（四国電力）、片川（北陸電力）、金折（山口大）、鎌田（九州電力；代理／西嶋）、河野（電源開発；代理／伝法谷）、北川（日本原電）、楠（電中研）、酒井（東京電力）、下川（産総研）、佃（産総研）、中西（中部電力）、野口（中国電力）、橋本（東北電力）、本荘（総合地質）、藪（北海道電力）、横倉（産総研）

幹事長 宮腰（電中研）

幹 事 三浦（電中研）

オブザーバー 青柳（電中研）、斎藤（CRS）、田中（東北電力）、浜田（北陸電力）、浜田（電中研）、藤田（九州電力）、宮崎（北海道電力）、柳沢（東京電力）、吉田（北陸電力）、吉次（中国電力）

議事概要（平成 13 年度第 2 回分科会にて承認済の議事録からの抜粋）：

1. 前回議事録（案）確認

平成 12 年度第 3 回分科会の議事録（案）について内容が確認の後、承認された。

2. 平成 13 年度糸魚川静岡構造線活断層系調査結果の中間報告

平成 13 年度糸魚川静岡構造線活断層系のトレンチの調査位置決定の経緯，調査内容，調査結果として，牛伏寺断層の活動履歴，最新活動年代，単位変位量などについての中間報告がなされた。また，これらの調査結果を含めたそれまでの調査結果から考えられる糸魚川線全体の活動モデル，及び今後の調査計画についての説明が行われた。この報告に対し，以下の質疑応答が行われた。

- ・釜無山断層群松木平トレンチについて，断層の落差や変位速度を知るために年代を検討・検証すべき地層の指摘があり，既に実施されているものの紹介と今後検討を追加する旨の回答があった。
- ・牛伏寺断層牛伏川トレンチについて，トレンチに見られるユニット間の不整合の構造的な成因の可能性，不整合・地層の変形の存在の指摘があり，丁寧に地層の年代と構造・分布状況の観察を行うことにより検討して行く旨の回答があった。
- ・牛伏寺断層千石沢トレンチについて，複数回変形を受けたユニットの変位量と単位変位量につ

いての関係，さらには，トレンチから読取れるイベントについての論拠について質問があり，各ユニットの年代の絞り込みや変形の仕方に注目して判断している旨の回答がなされた．

- ・糸静全域の活動について，反射法の結果などでは上宮地と中野は地下で収斂していると考えられ，最後のイベントで一致していないとしても，その前のイベントでは連動した可能性もあるとのコメントがあった．

3．鳥取県西部地震にかかわる話題提供

青柳氏より，電力中央研究所で実施した鳥取県西部地震の震源付近の微小地震観測に関わる話題提供があった．

以上